

通信 ⑨

ウラギンシジミの越冬

(チョウ目 シジミチョウ科)

秋も深まり北風の冷たさを感じる頃、舞う蝶の姿も殆ど見られなくなりました。

そんな時、ツバキの葉裏に白いはねを見つけたことがあります。これは、ウラギンシジミという蝶です。この蝶は秋の頃に成虫になり、冬に入る前に、栄養を十分に吸収し



ウラギンシジミ：早春の日光浴び（左） ツバキの葉に積もった雪と葉裏での越冬個体・裏面は銀色（右）

ます。花の蜜ではなく、路上に落ちているミミズの死体やサワガニ・カエル・ヘビなどの動物死体の汁を吸うのです。栄養を十分に吸収したウラギンシジミは、静かに葉裏にとまり、葉肉に足のつめをしつかりくいこませ、何と春の到来まで約4〜5ヶ月も飲まず動かず、厳冬を過ごすのです。でも、すべてのウラギンシジミが春まで生き残れるわけではありません。観察によると、生き残れるのは2割程度にすぎません。落下死する一番の原因は、乾燥です。体内の水分が失われていくと、葉にくいこんだ足の力がなくなり落下してしまうのです。

木の葉から落下すると、草間にはクモなどが、この獲物を待ち受けていて、食べられてしまいます。秋のうちにしつかり栄養分をとりこみ、乾燥や寒さに耐えられる絶好の位置の葉を選べたウラギンシジミが生き残り、春の陽光にはねを輝かすことができるのです。この強い個体の子孫が、命をつないでいくのです。

(松田邦雄)

おぼせ アートミュージアム



3年 福田 奈々美さん
『楽しいふしぎな車のり』



4年 三上 知浩さん
『せんすいかん』

梅園小学校

1月の納税

国民健康保険税 第7期
(1月31日まで)

人口と世帯

12月1日現在
()は前月比

総人口	12,636人(-12)
男性	6,300人(-6)
女性	6,336人(-6)
世帯数	4,927世帯(+4)

あとがき

あけましておめでとうござい
ます。本年も広報おぼせをどう
ぞよろしくお願いたします。

さて、今月号の表紙は、越生
保育園の園児と「うめりん」の
集合写真です。

表紙写真は毎号悩みの種です
が、今回は特に新年号というこ
とで、どんな写真にすべきかを
非常に悩んでいました。そして、
締め切り直前に聞いたのが、今
回採用した集合写真のアイディ
アです。

越生保育園のみなさん、急な
訪問に関わらず、大歓迎してい
ただき、本当にありがとうございました。
お陰様で新年号にふ
さわしい良い表紙となりました。
(月)